

世帯が一番多く、全体の半分程度を占めていたが、平成22（2010）年では夫婦のみの世帯が一番多く3割程度を占めており、単独世帯と合わせると半数を超える状況である。

また、65歳以上の高齢者のいる世帯構造を地域別にみると、東北地方や日本海側の都道府県の多くは三世帯世帯が最も多く、東京都、高知県及び沖縄県では単独世帯が最も多い。その他の都道府県では夫婦のみの世帯が最も多い（図1-2-1-2）。

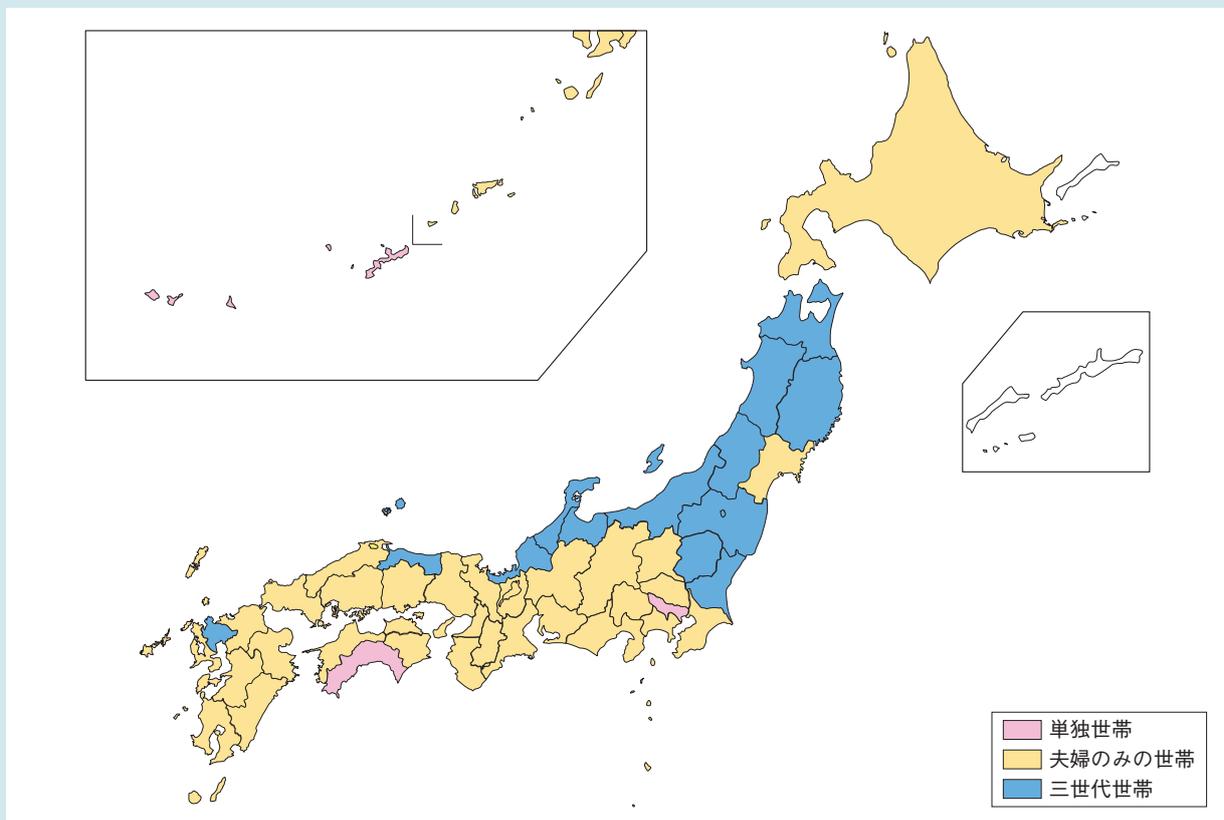
さらに、65歳以上の高齢者が世帯主である世帯（高齢世帯）も増加している。今後の高齢世帯数は、平成42（2030）年には1,903万世帯と22（2010）年から約1.2倍に増加すると見込まれている。これに対して一般世帯総数は22（2010）年の5,184万世帯をピークに、27（2015）

年には5,060万と減少に転じ、その後、42（2030）年には4,880万世帯にまで減少すると見込まれている。この結果、一般世帯総数に占める高齢世帯の割合は、22（2010）年の30.8%から42（2030）年には39.0%へと上昇することが見込まれている。さらに、高齢世帯数に占める家族類型別割合の変化をみると、「単独世帯」の割合が一貫して上昇し続け、42（2030）年には37.7%へと上昇することが見込まれている（図1-2-1-3）。

(2) 子どもとの同居は減少しているが、配偶者や子どもが心の支えとなっている人は多い

65歳以上の高齢者について子どもとの同居率をみると、昭和55（1980）年にほぼ7割であったものが、平成11（1999）年に50%を割

図1-2-1-2 65歳以上の者のいる世帯のうち各県で最も割合が多い世帯構造

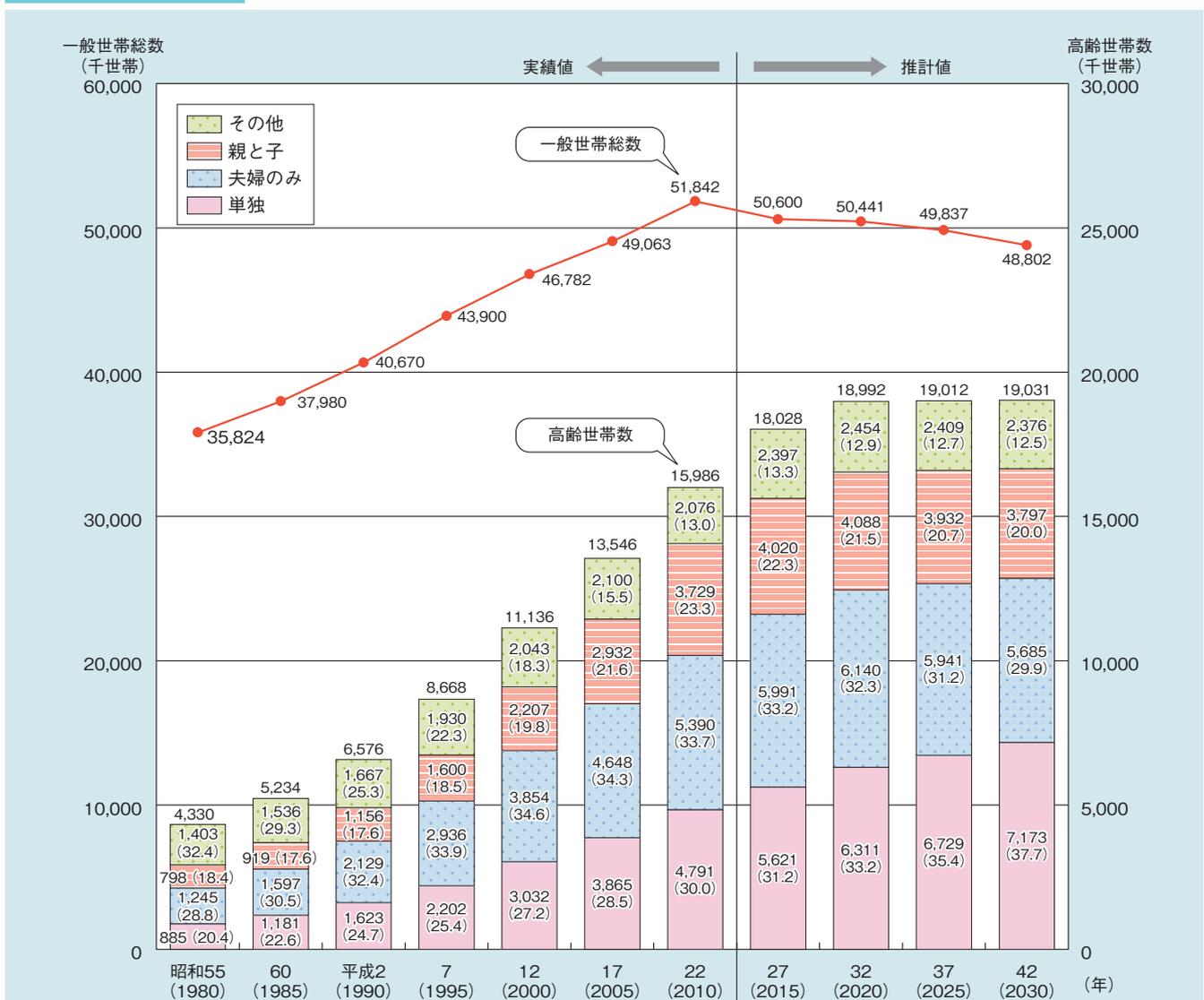


資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成22年）

り、22（2010）年には42.2%となっており、子どもとの同居の割合は大幅に減少している。一人暮らし又は夫婦のみの世帯については、ともに大幅に増加しており、昭和55（1980）年には合わせて3割弱であったものが、平成16（2004）年には過半数を超え、22（2010）年には合わせて54.0%まで増加している（図1-2-1-4）。

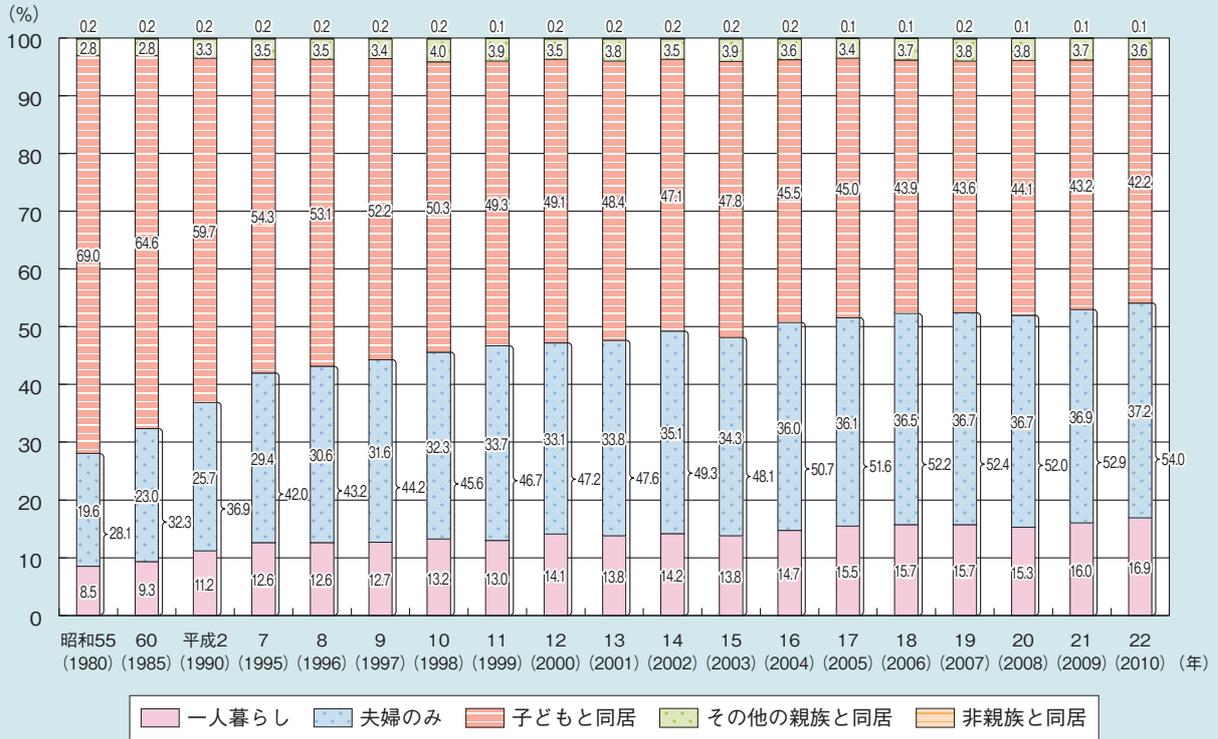
高齢者の心の支えとなっている人についてみると、「配偶者あるいはパートナー」を挙げる人が3分の2近く（65.3%）おり、また、子どもを挙げる人も6割近く（57.4%）となっている。これを諸外国との比較で見ると、日本とスウェーデンでは、「配偶者あるいはパートナー」（日本65.3%、スウェーデン70.9%）の割合が最も高く、アメリカでは、「子供（養子を含

図1-2-1-3 高齢世帯数（家族類型別）及び一般世帯総数の推移



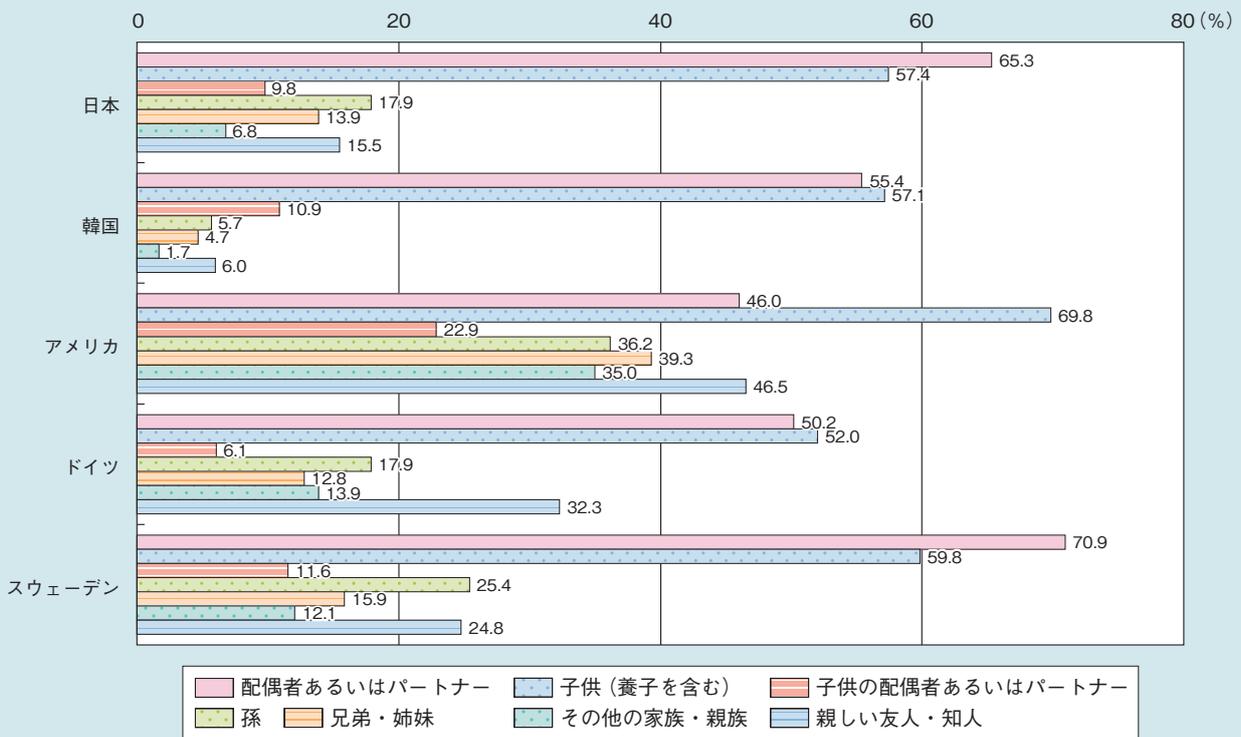
資料：平成22年までは総務省「国勢調査」（昭和55年の家族類型別世帯数は20%抽出集計結果による。）
 平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」（平成20年3月推計）
 (注1) 一般世帯とは、住居と生計を共にする者の集まり、または、一戸を構える単身者のこと。寮等の学生、病院等の入院者、矯正施設等の入所者などは、施設等世帯とされる。
 (注2) 高齢世帯とは、世帯主の年齢が65歳以上の一般世帯
 (注3) () 内の数字は、高齢世帯総数に占める割合(%)であり、千世帯単位で計算している。
 (注4) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

図1-2-1-4 家族形態別に見た高齢者の割合



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省「国民生活基礎調査」
 (注1)「一人暮らし」とは、上記調査における「単独世帯」のことを指す。

図1-2-1-5 心の支えとなっている人（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年）
 (注) 対象は、60歳以上の男女

む)」(69.8%)の割合が最も高い。また、韓国とドイツでは、「配偶者あるいはパートナー」(韓国55.4%、ドイツ50.2%)と「子供(養子を含む)」(韓国57.1%、ドイツ52.0%)の割合が拮抗している。

また、「親しい友人・知人」を挙げた人の割合は、アメリカ46.5%、ドイツ32.3%、スウェーデン24.8%に対して日本は15.5%、また、「その他の家族・親族」の割合は、アメリカ35.0%、ドイツ13.9%、スウェーデン12.1%に対して日本は6.8%と、それぞれ日本の割合が低くなっている(図1-2-1-5)。

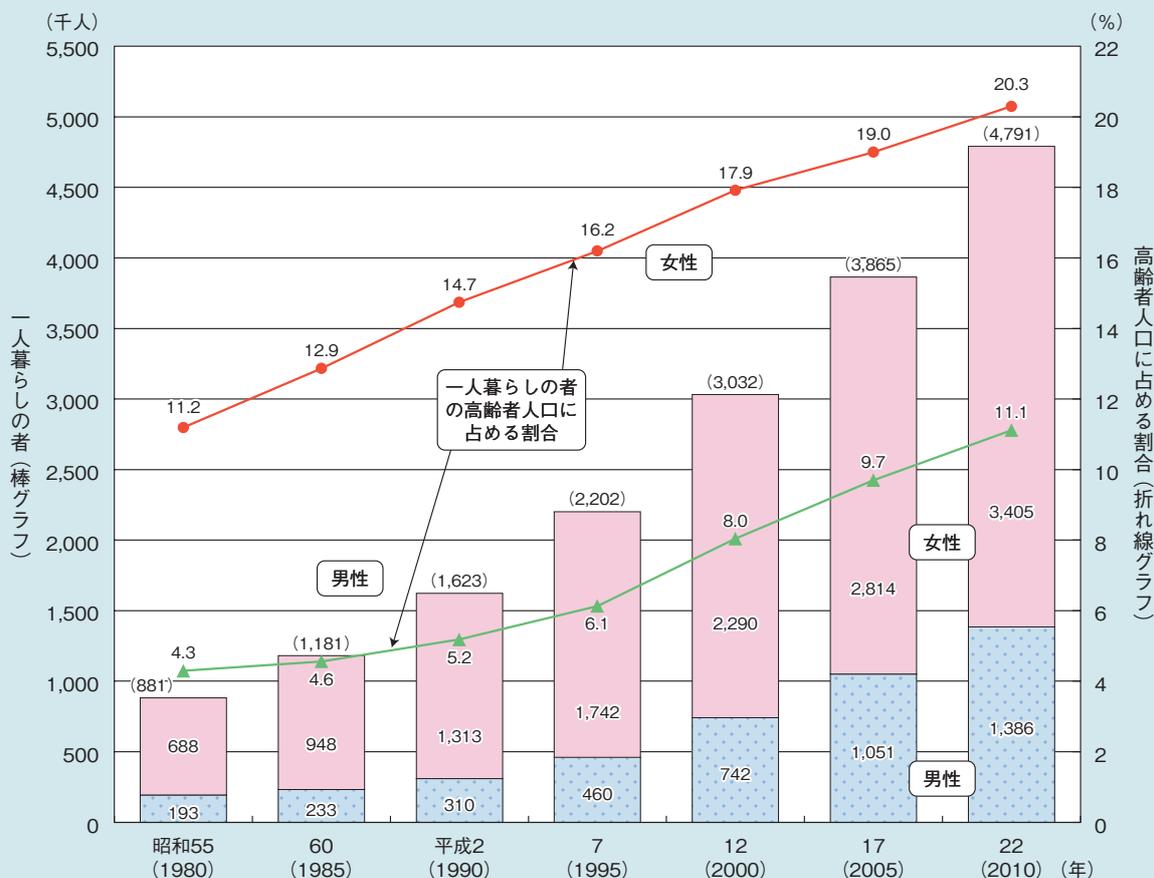
(3) 一人暮らし高齢者が増加傾向

65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、昭和55(1980)年には男性約19万人、女性約69万人、高齢者人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、平成22(2010)年には男性約139万人、女性約341万人、高齢者人口に占める割合は男性11.1%、女性20.3%となっている(図1-2-1-6)。

(4) 女性の有配偶率は5割弱だが上昇傾向

65歳以上の高齢者の配偶関係についてみると、平成22(2010)年における有配偶率は、男性80.6%に対し、女性は48.4%である。女性

図1-2-1-6 一人暮らし高齢者の動向



資料：総務省「国勢調査」

(注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」のことを指す。

(注2)棒グラフ上の()内は65歳以上の一人暮らし高齢者の男女計

(注3)四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。